

# プロフィール

(平成10年3月31日現在)

**創業**  
明治13年

**総資産**  
51兆880億円

**預金**  
31兆3,167億円

**貸出金**  
32兆305億円

**資本金**  
5,290億円

**発行済株式数**  
29億6,761万4千株

**自己資本比率**  
9.41%

**従業員数**  
14,615人

**拠点数(国内)**  
935  
(本支店290、出張所43、  
代理店7、無人店舗595)

**拠点数(海外)**  
47(支店25、出張所1、  
駐在員事務所21)

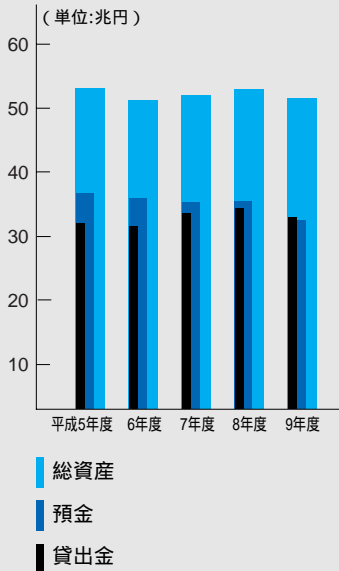
## 最近の業績推移

(単位:億円)

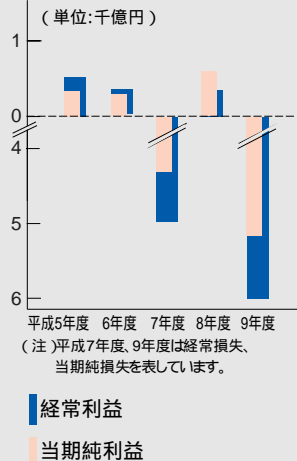
	平成9年度	8年度	7年度	6年度	5年度
総資産	510,880	520,668	509,520	507,301	524,485
貸出金	320,305	340,373	323,761	309,675	316,110
有価証券	62,507	57,744	57,991	60,837	57,463
預金	313,167	343,946	341,913	348,218	363,376
資本勘定	11,407	16,720	14,293	18,808	18,704
経常収益	25,387	26,206	29,918	28,708	25,794
業務純益	3,203	3,271	4,665	2,882	3,621
経常利益	5,763	312	5,000	381	526
当期純利益	5,187	539	4,297	343	267
1株当たり配当金(普通株式)(円)	8.50	8.50	6.50	8.50	8.50
(同 中間配当金)(普通株式)(円)	(-)	(4.25)	(3.25)	(4.25)	(4.25)
1株当たり配当金(優先株式)(円)	7.50	3.75	-	-	-
(同 中間配当金)(優先株式)(円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益(円)	179.19	18.54	148.32	11.85	9.23
1株当たり純資産額(円)	321.22	504.57	493.31	649.15	645.69
配当性向(%)	-	45.83	-	71.72	92.07

(注) は損失を表しています。経常利益の は経常損失を、当期純利益の は当期純損失を、1株当たり当期純利益の は1株当たり当期純損失を表しています。  
(1株当たり中間配当金)は内数です。  
1株当たり当期純利益は、当期純利益から当期優先株式配当金総額を控除した金額を、期中発行済普通株式数で除しています。  
1株当たり純資産額は、期末純資産額から「期末発行済優先株式数×発行価額」を控除した金額を、期末発行済普通株式数で除しています。  
配当性向は、当期普通株式配当金総額を、当期純利益から当期優先株式配当金総額を控除した金額で除しています。

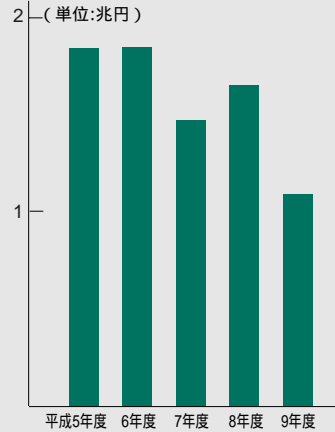
### 総資産・預金・貸出金の推移



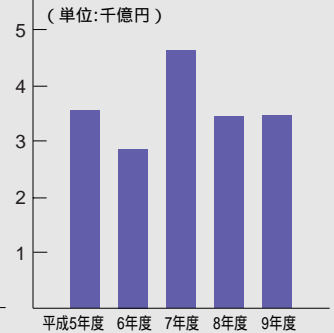
### 経常利益・当期純利益の推移



### 資本勘定の推移



### 業務純益の推移



# 経営方針

みなさまには、平素より私ども富士銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。当行では、昭和53年度以降、当行に対するみなさまのご理解をより一層深めていただくために、本ディスクロージャー誌を刊行してまいりました。その第21号となる今回は、従来同様、当行の経営方針や最近の業績、業務活動について、できるだけ分かりやすくご説明するとともに、新たに、不良債権の内容や事業戦略について詳しくご説明するページを設け、より開かれたディスクロージャー誌とすることを心がけました。また、本誌とは別に、簡便なディスクロージャー誌として「こんにちは富士銀行です」も刊行しています。本誌とともども、みなさまのお役に立つことを願っています。

さて、昨年は、「日本版ビッグバン」という金融市場の大きな構造改革が急速に進展する一方で、日本の金融システムに対する不信感、不安感がかつてないほどにまで高まり、わが国金融機関の経営姿勢や将来展望が厳しく問われた1年でした。

日本の金融市場をニューヨークやロンドンとならぶ国際金融市場として再生することを目指す「日本版ビッグバン」は、銀行、証券などの業態間の垣根を超え、海外の有力金融機関を含めた新しい競争環境の到来を意味しています。また、情報通信技術の飛躍的発展が、資金決済のシステムやお客さまへのサービス提供チャネルなど、銀行業務のありようやお客さまと銀行との関係を大きく変えようとしています。

わが国金融機関にとっては、新しい熾烈な競争時代を迎えることとなりますが、新しい事業領域が広がり、大きな飛躍が展望できる絶好の機会でもあります。

一方、わが国金融システムに対する国際的な不信感の高まりにより、お客さまが金融機関を選ぶ基準として、「健全性」が大きな比重を持つようになってきました。すなわち、財務体質や資産内容の優劣が、お客さまや株主のみなさまからの評価や業績を直接左右するようになった、ということです。

まさに、わが国金融機関は、全く新しい競争時代に突入いたしました。今後の数年間において、グローバルスタンダード(国際標準)に則した、市場原理に基づく経営への転換を成し遂げ、高度化・多様化するお客さまの金融ニーズに的確に対応できるサービス提供力を持つ金融機関のみが、21世紀のリーディングカンパニーとして選別されることになります。



当行では、21世紀をリードする新しく強い富士銀行を創り上げるためには、経営戦略の抜本的革新が必要であると判断し、従来の中期計画「顧客支持トップ118（平成8～10年度）を平成9年度をもって中断するとともに、新しい時代に対応した総合経営戦略として、平成10年度より新中期計画「戦略の革新120」をスタートさせました。

新中期計画「戦略の革新120」では、「当行は、『富士銀行の企業行動原理』<sup>1</sup>のもと、『顧客支持トップバンク』<sup>2</sup>を実現し、銀行の社会的使命を果たす」ことを基本方針として、事業戦略および経営インフラを革新するとともに、リストラクチャリングの総仕上げを成し遂げることにより、重点化による生産性向上を図り、「顧客層に応じた最適サービスを提供する、高効率で収益力の高い、グローバル金融サービスグループ」の実現を目指していきます。

## 「富士銀行の企業行動原理」<sup>1</sup>

### 銀行の公共性・社会的責任の自覚

銀行の公共的役割を自覚し、経営の自己責任に基づく健全経営に徹し、その社会的使命を全うすることをもって、内外経済・社会の安定的な発展に寄与する。

### お客さま第一主義の実践

お客さまに誠心誠意・親切の心をもって接し、真摯な姿勢でご要望に耳を傾けるとともに、正確・迅速そして質の高い最良の金融サービスを提供する。

### 誠実・公正な行動

法令およびその精神を遵守し、社会的規範に悖ることのないよう行動は常に誠実かつ公正を旨とする。

### 社会への貢献と調和

銀行の本来的機能の適切な発揮を通じて社会の発展向上に貢献するとともに、良き企業市民または国際社会の一員としての責務の自覚に基づき、社会とのコミュニケーションを密にして、企業行動が社会の常識と期待に沿うよう努める。

### 人間性尊重

ゆとりと心の豊かさを大切にして、人間尊重の精神に溢れた、働きがいのある自由闊達な組織風土を築きあげる。

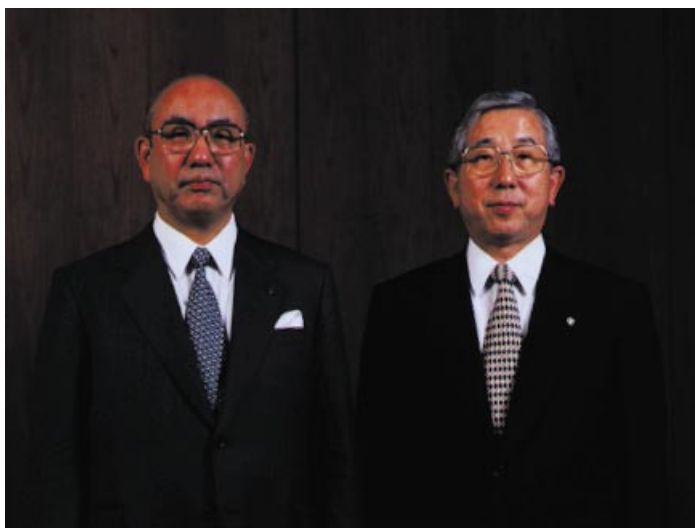
## 「顧客支持トップバンク」<sup>2</sup>

「お客さまの満足」において、「顧客取引の質と量」において、「収益力・健全性」において、それぞれトップレベルを確立していること。

なお、平成9年度決算におきましては、早期是正措置に対応して厳正に資産の自己査定を行い、不良債権に対して必要かつ十分な引当金計上を行った結果、誠に遺憾ながら大幅な当期損失を計上しました。

これにより、当行は、関連ノンバンクを含め、不良債権の財務処理に完全にめどをつけることができました。今年度以降は、新中期計画のもと、業績ならびに減少した自己資本の早期回復に、従来にもまして精一杯努力していく所存です。

みなさまには、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



会長 橋本 徹

頭取 山本 恵朗

平成10年6月

会長 橋本 徹

頭取 山本 恵朗